

4月のマンスリーアーティストV.I.P.はハナレグミ！
 スペシャだけの独占インタビュー、そしてレキシ池田貴史を迎えた豪華スタジオライブも。
 写真家・佐内正史との「あてもなく あのみちへ」で2人が切り取る風景とは…？お見逃しなく！



株式会社スペースシャワーネットワーク(代表取締役社長：林吉人、本社：東京都港区)が運営する日本最大の音楽専門チャンネルスペースシャワーTVは4/24(土)21時より「V.I.P.-ハナレグミ-」を放送いたします。

4月のマンスリーアーティストV.I.P.は約3年半ぶりのフルアルバムをリリースしたばかりのハナレグミ！今回はハナレグミとしての活動、そして最新作「発光帯」についてスペシャ独占インタビューを敢行。アルバムの制作秘話を紐解きながら、今回のアルバムにゲスト参加した古くからの盟友・池田貴史(レキシ)や原田郁子(クラムボン)をはじめmabanua、沖祐市(東京スカパラダイスオーケストラ)らのコメントも。そしてこの番組だけのエクスクルーシブなスタジオライブとして「家族の風景」、レキシ池田貴史とのスペシャルセッションでの「発光帯」2曲をお届けします。そして近年、写真撮影に夢中になっている永積 崇が予てから共演を希望していた写真家・佐内正史とともに「あてもなく あのみちへ」と題して国立の街を巡ります。自身の地元でもあるというこの街で2人が切り取る風景とは？ご期待下さい！

全ての詳細はこちら⇒番組HP：<http://sstv.jp/hanaregumi>

◆番組概要

V.I.P.-ハナレグミ-

【放送日程】4/24(土) 21:00~22:00
 3年半ぶりとなる待望の8thアルバム『発光帯』を3/31にリリースしたハナレグミ。これを記念して、撮り下ろしの特別番組をお届けします！



＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社スペースシャワーネットワーク メディアマーケティング課 担当：南日久志
 MP: 080-6860-3766 MAIL: nannichi@spaceshower.net

<オフィシャルレポート>

前作からおよそ3年半ぶりとなるニューアルバム『発光帯』をリリースしたばかりのハナレグミ。4月のマンスリーアーティストとして、1ヶ月にわたりさまざまな特集を組んできたスペースシャワーTVでは、4月24日(土)21時より、彼の素顔に迫る特別番組「V.I.P. —ハナレグミ—」を放送する。

ハナレグミの「今」と、ニューアルバムから見える開けた景色。

前作『SHINJITERU』が内へ向かっていく作品だったとするならば、コロナ禍で制作されたニューアルバム『発光帯』は、外へ向かっていくような、これまでにない手触りと開放感に満ちた作品となった。しかし、それは単純にハナレグミの今の気持ちが反映されたというわけではなく、昨年の春はそれまでに経験したことはないもやがかかると感じる感覚の中にあり、多くの情報に心が疲弊して、なかなか制作に向かうことができなかつたのだという。そんなとき、久しぶりにスタジオに入り、「誰かと音楽を鳴らすことでそれまでの時間が腑に落ちた」という永積。強い意思や意味を持ったものから距離を置いた時間があつたからこそ、「もっとサウンディングを信じてみたい」という思いでつくられた本作には、何気ないけれど気持ちのいい景色のような楽曲が並んでいる。

また、今回の特徴の1つに、さまざまなアーティストたちとの共作がある。mabanuaをサウンドプロデューサーに迎えた『独自のLIFE』をはじめ、アルバムのタイトル曲でもある『発光帯』は、20年以上の付き合いとなる池田貴史が作曲、原田郁子(クラムボン)が作詞を手がけており、ソングライティングからボーカルディレクションまでをすべて自分以外の人に委ねることで、「歌に徹する喜び」を感じられたという。インタビューでは、ニューアルバムに向かっていく気持ちの変遷が語られるほか、制作を共にしたアーティストたちにも話を訊き、彼らの目から見るハナレグミとはどんなアーティストなのか、どのようにして楽曲がつけられたかなど、制作の過程が紐解かれていく。さらに、都内のスタジオで収録された池田のピアノ伴奏による『発光帯』と、永積自身が「写真のような曲」と話す『家族の風景』の弾き語りもオンエアされる。

写真家・佐内正史と見つけた、「これが自分」と言える場所。

ニューアルバムに関するインタビューやラジオでもすでに語られているが、コロナ禍において永積が夢中になっていたことがフィルムカメラでの撮影である。それは、「手触りのない日々の中に、写真を撮ることによって色をつける」という行為であり、「消えそうな感覚を唯一とどめてくれたもの」でもあつた。その何気ない日常の記録は今作のアルバムジャケットやブックレットにも使用され、歌を聴きながら写真を眺めることで、また新たな物語や景色が立ち上がってくるようなアルバムを構成する大きな役割を担っている。

そんな永積には、敬愛してやまない写真家がいる。多くの俳優やアーティストたちからも信頼を得る佐内正史だ。今回、憧れを持って佐内の写真を見続けてきた永積の希望により、2人で写真を撮りに出かけるというロケが実現した。佐内の運転する車に乗り向かった先は、永積が生まれ育った町、東京都国立市。“撮ること”について語りながら、何気ない町の風景を切り取っていく佐内の背中を静かに追う永積は、最後に「ここは自分だ」と思える、ある場所へたどり着く。佐内もまた、「ここは永積くんではない」と話すその場所で、それぞれが写した風景、そこから彼が感じ取った自分自身とはどんなものだったのか。

「写真には絶妙な距離があるからこそ、触れ合った瞬間に、より永遠のようになる」と話す永積にとって、撮ることと歌うことは似ているのだという。佐内との時間を通して彼の中に生まれた景色や言葉は、また次の歌へとつながっていくのだろう。そんなことを感じさせる永積の表情が番組の中に映し出されている。

<コメント出演アーティスト>

池田貴史(レキシ)、沖祐市(東京スカパラダイスオーケストラ)、原田郁子(クラムボン)、mabanua(プロデューサー・トラックメイカー)

◆文: 齊村朝子

◆撮影(スタジオライブ/インタビュー): 菊池さとる

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社スペースシャワーネットワーク メディアマーケティング課 担当: 南日久志
MP: 080-6860-3766 MAIL: nannichi@spaceshower.net